



基幹型臨床研修指定病院
独立行政法人 国立病院機構
大分医療センター

臨床研修医 募集案内

2026年度



National Hospital Organization Oita Medical Center

基本理念

「愛の心・手」で病める人々に寄りそう医療

運営方針

- ① 政策医療の推進
- ② 臨床研究の推進
- ③ 教育研修の推進
- ④ 地域の中核病院としての機能を充実させる
- ⑤ 健全経営を志向する

病院の 沿革・特徴

当院は昭和 54 年 4 月開院、国立病院としては専門医療施設に位置づけられていたため、診療各科の連携による“専門医療的”統合病院として診療の充実を図ってきました。

政策医療としての、がん、肝疾患診療を中心とした診療・臨床研究・教育研修を一層推進し、臨床研修指定病院として毎年研修医を引き受けています。

今後とも地域の中核病院としての高度先駆医療・生涯教育・良質な医療サービスを提供します。

特色として

- ① がん、悪性新生物治療の特例病床 50 床を有し、集学的治療を行っています。
- ② 診療部門をセンター化し、より機能的、効率的に診断、治療を行っています。
- ③ クリティカルパスを 147 種類有し、効率的な医療を行っています。
- ④ 救急医療に積極的に取り組み、平成 12 年 4 月 1 日より大分市二次救急医療固定型輪番制 (365 日 24 時間体制) の指定を受けています。





病院の概要

- 名 称／大分医療センター
- 開設者／独立行政法人国立病院機構
- 病院長／奈須 伸吉
- 住 所／〒 870-0263 大分市横田二丁目 11 番 45 号
- 病床数／一般 300 床（15 休床）
- 医師数／常勤医師 41 名 非常勤医師 19 名
- 標榜診療科／
糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科、膠原病内科、消化器内科、循環器内科、
心臓血管外科、呼吸器内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、血液内科、脳神経内科、
整形外科、泌尿器科、婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、精神科、
病理診断科、総合診療内科、（小児科）、（眼科） （ ）は休診中
- 1 日平均患者数 外 来 248 件 入 院 196 件
- 年間救急受入数 患者数 4,309 件 救急車 1,749 件
- 年間手術件数 総 数 3,542 件 全身麻酔 489 件
- 医学会認定教育施設
 - ・ 日本糖尿病学会 認定教育施設
 - ・ 日本呼吸器学会 呼吸器内科領域専門研修制度連携施設
 - ・ 日本循環器学会 循環器専門医研修施設
 - ・ 日本消化器内視鏡学会 指導施設
 - ・ 日本がん治療認定医機構 認定研修施設
 - ・ 日本外科学会 専門医制度修練施設
 - ・ 日本消化器外科学会 専門医修練施設
 - ・ 日本消化器病学会 専門医制度関連施設
 - ・ 日本乳癌学会 関連施設
 - ・ 日本胃癌学会 認定施設
 - ・ 日本整形外科学会 専門医制度研修施設
 - ・ 日本泌尿器科学会 専門医教育施設
 - ・ 日本透析医学会 教育関連施設
 - ・ 日本医学放射線学会 放射線科専門医修練機関
 - ・ 日本 IVR 学会 専門医修練施設
 - ・ 日本麻酔科学会 麻酔科認定病院
 - ・ 日本産婦人科学会 産婦人科専門研修プログラム連携施設
 - ・ 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

2026年度 臨床研修医募集要領

1	募集資格	2025 年度医師免許取得見込みの者
2	募集人員	2 名
3	採用年月日 (研修開始日)	2026 年 4 月 1 日 (水) オリエンテーション期間を含む
4	提出書類	① 履歴書 (市販のもので可、要写真貼付) ② 卒業見込証明書 ③ 健康診断書 (指定用紙)
5	募集締め切り日	試験日の 2 週間前まで
6	選考方法	面接
7	選考日	随時
8	申し込み 問い合わせ先	独立行政法人国立病院機構 大分医療センター 管理課 庶務係長 〒 870 - 0263 大分市横田二丁目 11 番 45 号 TEL : 097 - 593 - 1111 FAX : 097 - 593 - 3106 メールアドレス : 617-sy01@mail.hosp.go.jp

身分及び処遇

1	身 分	2 年契約による臨床研修医 (期間職員)
2	給 与	1 年次…420,000 円/月額 2 年次…430,000 円/月額 (上記に時間外・休日・当直手当は含まず) 賞与 あり
3	社会保険	厚生労働省第二共済組合 雇用保険、労災保険、厚生年金保険
4	食 事	売店 (コンビニ) ※営業時間 平 日 8:00~18:00 土日祝 9:30~13:30 職員食堂なし
5	そ の 他	学会出張・参加費用の支給有り、保育所有り

臨床研修プログラム

1 プログラムの目的 プライマリ・ケアを中心に高度先進医療を含む幅広い医師としての診療能力を身につけ、患者様に信頼される臨床医となる基礎を確立することが目的です。

2 研修施設 大分医療センター 及び
研修協力病院（別府医療センター、佐賀関病院）

3 研修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	糖尿病・代謝・ 内分泌内科		麻酔科		外科		循環器内科		消化器内科		呼吸器 内科	泌尿器 科
2年次	地域	選択必修・その他										

※救急部門や HCU の実習は 1 年を通して行います。

- 必修科目（3科目） 内科系：糖尿病・代謝・内分泌内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科
救急部門(救急外来)：麻酔科に2ヶ月、ICUに2ヶ月所属
地域医療：佐賀関病院（1－3ヶ月）
- 選択必修科目（2科目選択） 各々1ヶ月以上
外科、麻酔科
小児科（別府医療センター）
産婦人科（別府医療センター）
精神科（別府医療センター）
- その他の科目（選択自由） 整形外科、泌尿器科、病理診断科

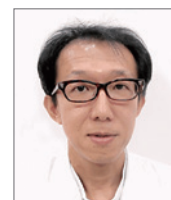
4 勤務時間・休暇及び当直
1) 基本的な勤務時間
8時30分～16時30分（週35時間）
2) 有給休暇：20日
夏期休暇：有（3日）
年末年始：有
その他休暇：慶弔休暇、看護休暇など
3) 当直
研修医当直として月に平日4日、休日1日程度です。

5 研修終了後 2年間の研修終了後には、大分医療センターにおいて、専修医として登用の進路があります。ただし当院の採用状況により常勤医師への採用もあります。

6 研修の特徴
・少ない研修医に対して手厚い指導
・地域に密着した医療でプライマリ・ケアから学べる
・365日24時間断らない診療で救急疾患の対応も学べる

研修担当 消化器内科部長・臨床研究部長 山下 勉

大分医療センターは、大分市東部にある地域に密着した中規模病院です。各科に専門医、指導医が揃っており、各科の連携もスムーズです。研修医の人数が少ないため、手厚い指導でのびのびと研修できる環境が整っています。





嶋崎 貴信

部長(平成12年卒)

内分泌疾患
代謝性疾患

医学博士
ICD制度協議会インフェクションコント
ロールドクター(ICD)認定医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科指導医・専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医・専門医
日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医
内分泌代謝・糖尿病内科領域 専門研修
指導医
日本肥満学会専門医
日本内分泌学会評議員
日本医師会認定産業医
臨床研修指導医
難病指定医

当科は日本糖尿病学会の教育関連施設Ⅱです。

メタボリック症候群を診療の中核としています。その一環として糖尿病の2週間パス入院、糖尿病教室、肥満外来を行っています。また甲状腺機能異常症などの内分泌疾患の診療も行っています。他のスタッフと協力して患者様に治療を継続して頂ける様心掛けています。

研修目標

内科医として必要な診断技術と治療法の基礎を身に付ける。

さらに、頻度の多い代謝・内分泌疾患の診断と初期治療法を修得する。

具体的には

1. 全身の基本的診察ができ、的確な診断へといたる。
2. 必要に応じて専門医へ紹介ができる。
3. 代謝疾患を理解し、その診断・治療・生活習慣の指導ができる。
4. 頻度の多い内分泌疾患の診断と治療ができる。

研修内容

数人の入院患者の担当医となり、外来では新患の予診を行う。

1. 問診：各疾患に特徴的な症状を念頭に置き、診断にいたるための必要な情報を系統的に聴取する。
2. 身体所見：神経学的所見を含む全身の基本的な所見をとり、診療録に正確に記載する。
糖尿病合併症（急性、慢性）や内分泌疾患の特徴的身体所見（甲状腺の触知など）をとる。
3. 検査：必要な血液生化学検査、各種負荷試験、抗体検査、画像検査などを選択する。
その結果から診断に至る、また病態を評価する。
4. 治療：的確な治療法の選択をする。
（代謝・内分泌疾患ではインスリンと経口血糖降下剤の適応、ホルモン補充療法など）
食事・運動療法や生活習慣の指導。

主な疾患と経験目標

1. 糖代謝異常：糖尿病性昏睡（1例）、1型・2型糖尿病および糖尿病合併症のコントロール（10例）、低血糖（2例）
2. 高脂血症、高尿酸血症、痛風（3例）
3. 高度肥満症（1例）
4. 甲状腺疾患：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症など（1例）

研修医の
皆さんへ

糖尿病臨床に少しでも興味のある先生方、一緒にやってみましょう。

呼吸器内科

呼吸器内科は肺癌、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群などの疾患を対象としています。ここ最近増加している肺癌に関しては呼吸器外科、放射線科と協力して患者様の病状にあわせた治療体制を取っており治療成績の向上に努力しています。

研修目的

呼吸器疾患に対し適切な初期対応ができるよう、必要な知識と基本的診療能力を身に付けることを目標とする。

経験が求められる疾患・病態

- ①呼吸不全（急性、慢性）
- ②呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎、慢性気道感染症）
- ③閉塞性・拘束性肺疾患（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気管支拡張症、間質性肺炎）
- ④肺循環疾患（肺塞栓・肺梗塞）
- ⑤異常呼吸（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群）
- ⑥胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）
- ⑦肺癌

到達目標

- ①胸部の視診、打診、聴診を理解し正常所見を認識できる
- ②胸部X線写真、胸部CT写真での正常像の理解と異常影の有無の指摘
- ③動脈血ガス分析（動脈血採血及び結果の解釈ができる）
- ④呼吸機能検査の意義と結果の解釈
- ⑤酸素療法の意義、内容を理解する
- ⑥ベッドサイドで必要な胸腔穿刺、胸腔ドレナージなどの手技を学ぶ
- ⑦気管支ファイバースコープの目的と適応、合併症を理解する
- ⑧気管支喘息ガイドラインを理解する
- ⑨成人肺炎診療ガイドラインおよび抗菌薬の種類とおおまかな選択方法を理解する
- ⑩肺癌の組織型や病期に応じた治療が理解できる

研修医の
皆さんへ

呼吸器内科は、感染症、アレルギー、悪性疾患、膠原病など、あらゆる疾患が関わってきます。さらに急性疾患から慢性疾患まで多岐にわたる診療領域を持つのも特徴です。幅広く奥深く学べます。

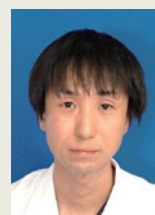
指導医



横山 敦

部長(平成17年卒)
内科一般
呼吸器疾患一般
感染症

大分大学医学部臨床教授
日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会認定内科医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
難病指定医
インフェクションコントロールドクター
(ICD)認定医
臨床研修指導医



後藤 昭彦

医長(平成22年卒)
内科一般
呼吸器疾患一般
感染症

医学博士
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
日本感染症学会感染症専門医

消化器内科

大分医療センター消化器内科では医師7名で消化器疾患全般（消化管疾患・肝臓疾患・胆膵疾患）の診断と治療を行っています。肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法（RFA）、胆膵疾患に対するERCPや超音波内視鏡やEUS-FNA、消化管癌に対する拡大内視鏡や粘膜下層剥離術（ESD）などの検査・治療手技も多数行っています。

消化器内科での研修期間中に①腹痛や嘔吐、下痢など消化器症状に対する初期対応の仕方、②代表的な消化器疾患の診断と治療方針の立て方、③内視鏡や腹部エコーなど各種検査、などを経験していただきます。

また常時、指導医のもとで5例程度を受け持っていただくとともに、研究会や学会での発表を経験していただければと考えています。

肝疾患

- ・肝機能異常をきたす疾患の鑑別診断が正しくできる
- ・急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変の病態と診断・治療を理解する
- ・B型肝炎・C型肝炎に対する薬物療法を理解する
- ・肝臓の診断と治療を学習し、外科手術、IVR、RFA、肝動注療法、全身化学療法などを理解する

胆膵疾患

- ・急性膵炎や閉塞性化膿性胆管炎など緊急の治療が必要な疾患の診断と治療を理解する
- ・胆膵腫瘍の診断と治療を理解する
- ・閉塞性黄疸に対する対応

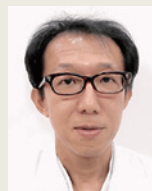
消化管疾患

- ・消化性潰瘍やヘリコバクターピロリ感染症の診断・治療ができる
- ・消化管癌の診断と内視鏡治療の適応を理解する
- ・消化管出血に対する初期対応ができる
- ・内視鏡の特性と取り扱い方法を理解し、検査を実践する

消化器内科研修期間2か月間を通して各検査の経験可能な症例数（助手を含む）（令和6年度全検査件数）

上部消化管内視鏡検査	50例	(2,225例)
下部消化管内視鏡検査	5例	(1,143例)
ERCP	30例	(350例)
食道静脈瘤治療（EVL/EIS）	2例	(27例)
腹部超音波検査	50例	(1,817例)
経皮的肝生検	2例	(24例)

指導医



山下 勉

部長(平成8年卒)
臨床研究部長
消化器疾患一般
肝疾患
消化器内視鏡

大分大学医学部臨床教授
日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会認定内科医
日本消化器学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医
難病指定医
臨床研修指導医



岡本 和久

部長(平成15年卒)
消化器疾患一般

日本消化器学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医



水内 梨絵

医長(平成22年卒)
消化器疾患一般

日本消化器学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医
日本内科学会認定内科医
難病指定医



研修医の
皆さんへ

消化器疾患を幅広くバランスよく学ぶことができます。
当科で研修してみませんか。

当科では狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患に対するカテーテルインターベンション治療を中心に診療しています。また、高齢者増加による心不全患者も急激に増加しており、心臓リハビリテーションも含めた包括的治療を行っています。また、高血圧、脂質異常症などの治療、指導などの動脈硬化性疾患の予防にも力を入れています。

①研修の対象となる疾患

- 1) 虚血性心臓病：急性心筋梗塞、狭心症
- 2) 不整脈
- 3) 心不全

以上の疾患の病態把握と迅速で適切な治療についての研修を行います。

その他の循環器科で扱う代表的疾患：

先天性心臓病、心臓弁膜症、高血圧性心臓病、心筋症、心膜疾患、大動脈疾患、肺動脈疾患、四肢動脈、腎動脈、頸動脈の閉塞性疾患、静脈疾患

②研修内容と到達目標

- 1) 疾患に応じた的確な病歴聴取
 - 2) 心音、呼吸音、全身の血管の触知、浮腫の評価など基本的診察手技の習得
 - 3) 生活指導：各疾患の再発を予防するための適切な生活指導ができるようになる。
 - 4) 患者、家族に対する説明
入院時、検査、手術の前後で、あるいは急変時に本人、家族に対して適切な病気の説明とそれに対する各治療法の利点、起こしうる合併症などの説明が適切にできる。
 - 5) 薬物療法：薬剤を病態に応じてエビデンスに基づいた適切な投与法ができるようになる。
 - 6) 循環器検査に対する習熟
モニター心電図、12誘導心電図、ホルター心電図、胸部X線、運動負荷心電図、心エコー、経食道心エコー、血管エコー（頸動脈・下肢動静脈）、心臓核医学、負荷心筋シンチ、心臓CT、心臓MRI
 - 7) 心臓リハビリテーション：意義と実際の活動を理解し実践できるようになる。
 - 8) 電氣的除細動
以上についてはその意義と検査、処置法に対して十分習熟する事を目標とする。
 - 9) 心臓カテーテル検査（週15～20例）（2024年493例）
冠動脈造影検査、右心カテーテル検査、心筋生検
 - 10) 経皮的冠動脈インターベンション（PCI）（2024年190例）
 - 11) IABP、ECMOの管理
 - 12) 体外式ペースメーカー、ペースメーカー植え込み術（2024年40例）
- 以上侵襲的な処置についてはその意義と病態を理解し介助ができる事を目標とする。

2年次研修では9)から12)についての研修を一層深め、適切な手技ができるようになる事を目指す。

指導医



有川 雅也

部長(平成7年卒)
統括診療部長

循環器一般
虚血性心疾患

医学博士
日本内科学会認定内科医
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会
専門医
大分大学医学部臨床教授
難病指定医
臨床研修指導医



田原 功道

医長(平成20年卒)
循環器一般

日本内科学会認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会
認定医

6名のスタッフで消化管、肝胆膵疾患、ヘルニア、乳腺疾患を中心に年間約400例の手術を行っています。根治を目指した拡大手術とともに低侵襲である腹腔鏡下手術も多数行っています。手術以外の治療では癌化学療法や緩和医療に関しても日常的に行っています。近隣の医療機関からも多くの患者様を御紹介いただいております。地域の中核病院として標準以上でしかも安全な外科医療を提供できるよう消化器内科、放射線科とともに協力し合い日々診療に臨んでいます。

受け持つ疾患：

消化管悪性疾患（食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌 など）、炎症性疾患（虫垂炎、胆石、イレウス、腹膜炎 など）、 兎径ヘルニア、肛門疾患、乳癌 等

一般目標

- ・ 基本的外科的処置
- ・ 基本的外科的知識
- ・ 手術適応の判断
- ・ 周術期の管理
- ・ 緩和治療の知識
- ・ 癌化学療法の知識

行動目標

- ①消毒法を学び清潔・不潔の区別ができる。
- ②術前評価ができる。
- ③手術の助手につき、手術の概要を学ぶ。
- ④手術記録の書き方を学ぶ。
- ⑤術後管理ができる。
- ⑥皮膚の切開・縫合ができる。糸結びができる。（開腹術、閉腹術を学ぶ。）
- ⑦C V（中心静脈カテーテル）を挿入できる。
- ⑧腹腔鏡手術の助手につき、腹腔鏡用カメラの操作を学ぶ。
- ⑨ターミナルケア（緩和ケア含む）について学ぶ。
- ⑩消化器癌、乳癌の化学療法について学ぶ。

研修医の
皆さんへ

週に4～5症例程度の全麻下手術（消化器外科、乳腺外科）と、多数の小手術を経験することができます。

指導医



梶島 章

副院長(平成6年卒)
外科一般

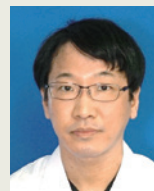
医学博士
日本外科学会外科指導医・専門医
日本消化器外科学会消化器外科指導医・専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
臨床研修指導医
日本胃癌学会代議員
日本医師会認定産業医



渡邊 公紀

消化器外科部長(平成17年卒)
外科一般

医学博士
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本外科学会外科専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
臨床研修指導医



小林 照之

医長(平成23年卒)
外科一般

医学博士
日本外科学会外科専門医
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医



高橋 純一

医長(平成24年卒)
外科一般

医学博士
日本外科学会外科専門医



田畑 知法

部長(平成16年卒)
整形外科一般

医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本リハビリテーション医学会専門医・
認定臨床医
日本人工関節学会認定医
ICD制度協議会インフェクションコント
ロールドクター(ICD)認定医
日本障がい者スポーツ協会障害者スポーツ医
日本スポーツ協会スポーツドクター
義肢装具等適合判定医
臨床研修指導医
難病指定医

研修プログラム

当科は日本整形外科学会の専門医制度認定施設です。

研修目的

- ①慢性疾患である変形性関節症や関節リウマチ、脊椎疾患、末梢神経障害の診断とその保存療法と手術療法の判断が出来るようになる
- ②整形外科外傷・スポーツ外傷、障害の診断とその保存療法、手術療法の判断が出来るようになる
- ③骨粗鬆症の診断、治療の判断が出来るようになる
- ④骨・軟部腫瘍の診断、治療の判断が出来るようになる

研修内容（3ヶ月間での症例数）

1. 基本的な整形外科的診察法
 - ・整形外科疾患に対する問診（20例）
 - ・四肢の計測、関節可動域の測定（10例）
 - ・骨折、靱帯損傷などの急性期外傷の診察（5例）
 - ・関節疾患や脊椎疾患、末梢神経障害の診察（5例）
 - ・骨・軟部腫瘍の診察（2例）
2. 検査法
 - ・整形外科疾患に対する単純X線検査の依頼、撮影方法（20例）
 - ・整形外科疾患に対する血液検査、関節液検査（10例）
 - ・四肢関節に対する関節穿刺法（10例）
3. 画像診断
 - ・単純X線像、CT画像、MRI像の読影（40例）
 - ・骨密度検査結果の解釈（15例）
4. 治療
 - ・関節内注射やシーネ・ギプス固定、装具療法などの保存療法（15例）
 - ・骨粗鬆症に対する薬物療法（15例）
 - ・大腿骨近位部骨折などの四肢の骨折に対する手術療法（10例）
 - ・変形性関節症や関節リウマチに対する人工関節置換術（5例）

その他

- ・一日の平均外来患者数 20名
- ・一日の平均入院患者数 30名
- ・年間手術件数
 - 骨折観血的手術（大腿） 60 - 80件
 - 骨折観血的手術（大腿以外） 50 - 70件
 - 人工骨頭挿入術（股） 30 - 40件
 - 人工関節置換術（膝、股、再置換含む） 40 - 50件
 - 上記以外 150 - 180件

泌尿器科

泌尿器科は医師3名体制です。扱う領域は腎・尿路の悪性腫瘍や結石、炎症、尿失禁、慢性腎臓病（CKD）、前立腺・副腎・副甲状腺などの内分泌器官の腫瘍などで、広範囲にわたります。

現在、腎癌、腎盂尿管癌、副腎腫瘍など多数の腹腔鏡手術が、泌尿器腹腔鏡手術認定医によって、安全かつ精緻に行われています。また、新病棟完成時に、血液透析室が10床に増床されたため、入院治療などを積極的に行っています。

①腹腔鏡手術（副腎腫瘍、腎癌、腎盂尿管癌など）②前立腺癌の検査（PSA 高値などで癌が疑われた方）MRI（拡散協調、直腸コイルなど）、生検（1、2泊入院）③尿路結石の治療 体外衝撃波尿路結石破碎術（ESWL）、尿路結石内視鏡手術（PNL、TUL）④慢性腎臓病（CKD）の治療 外来での腎機能の管理・栄養指導、CAPD 外来、透析導入（HD、CAPD）、HD 患者の入院治療（手術、シャントトラブルなど）、副甲状腺腫瘍の手術 ⑤前立腺肥大症や膀胱癌の内視鏡手術（短期計画的入院）⑥女性泌尿器科疾患（骨盤臓器脱、尿失禁手術）

おかげ様で、県内各所の医療機関との連携も深まりました。今後も、急患や紹介には迅速に対応しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

高齢化社会の到来により、ここ数年で泌尿器科疾患の患者は急増していますが、泌尿器科医は絶対数が不足しています。当科は日本泌尿器科学会認定の基幹教育施設であり、経尿道の手術（前立腺肥大症や膀胱癌）から、高度な腹腔鏡手術（前立腺癌・腎・副腎疾患など）まで幅広く対応しており、過去5年間の手術生検件数は年平均約500例で、県内有数です。

ローテート期間中は、手術・腰椎麻酔を中心に、外来診療と内視鏡検査や、血液透析・腹膜透析の導入・管理、病棟での尿路管理など、盛りだくさんの内容を一緒にを行います。

ぜひ"これからの科"泌尿器科で共に汗を流して勉強しましょう。

臨床研修（3ヶ月当り）は、主に泌尿器科指導医とともに以下のことを行います。

①外来診療（毎日）

- ・主な泌尿器科疾患（腎・副腎腫瘍、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺肥大症・前立腺癌、腎尿管結石、糸球体腎炎・腎不全、腎盂腎炎・膀胱炎、神経因性膀胱、尿失禁など）の基本的な診断と治療を修得する。
- ・外来検査：尿検査尿道膀胱鏡検査（30例）、腎・尿路の超音波検査（100例）、尿流測定検査（20例）、膀胱内圧測定検査（5例）を行う。

②血液透析（月・水・金）

- ・内シャントエコー（10例）、大腿静脈カテーテル挿入（5例）を行う。
- ・個人透析機・透析回路の基本を修得する。
- ・内シャントの診察、体外循環時の患者の管理を修得する。

③手術（毎日）

- ・腰椎麻酔（50例）を行う。
- ・全ての手術・生検を執刀医とともに行う。
腹腔鏡下手術（副腎・腎・前立腺）・開腹手術（腎・膀胱・前立腺）などの全麻下手術（25例）
前立腺生検・尿路内視鏡手術などの腰麻下手術（80例）
内シャントなどの局麻下手術（10例）
時間外の急患・緊急手術にも参加してもらいます。
- ・ESWL（20例）

④病棟診療（随時）

- ・膀胱カテーテル留置（30例）を行う。
- ・術後患者の管理を修得する。

指導医

奈須 伸吉

院長（昭和61年卒）
泌尿器科

医学博士
大分大学医学部臨床教授
日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・専門医
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術認定医・評議員
日本透析医学会認定医
死体解剖資格認定（病理解剖）
臨床研修指導医
難病指定医
日本泌尿器科学会西日本支部評議員



住野 泰弘

部長（平成9年卒）
泌尿器科

医学博士
大分大学医学部臨床教授
日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本排尿機能学会専門医
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
日本泌尿器科学会西日本支部評議員
難病指定医
臨床研修指導医



研修医の
皆さんへ

当科は大分県東部地域の泌尿器科のかなめです。腹腔鏡手術が得意です。一緒に楽しく有意義な研修をしましょう。



牧角 健司

部長(平成元年卒)
放射線診断一般
放射線治療、血管造影、IVR
医学博士
放射線診断専門医
臨床研修指導医

放射線科の業務は、日々の検査レポートの作成だけではなく、診断に対する支援や医用画像下の治療があります。血管造影技術を用いた血管系の治療である腫瘍塞栓術をしたり、ドレーンを行ったりする非血管系の治療など多彩な手技が含まれます。また、体外や体内より臓器別の診療の中で、医療の横軸としての役割を果たすべく、医師・技師・看護師・クラークを含めた放射線科チームとして、他科の先生方と連携を行いながら診療を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。

I. 研修内容

放射線科の研修カリキュラムは放射線診断（核医学を含む）と放射線腫瘍学（放射線治療）があり、研修医の希望によってそれぞれの研修の時間配分を決定することが可能である。

【研修方法】

1. CT・MRI・RI・超音波・各種造影検査に参加する。
2. 画像診断報告書業務を、指導医の監督下に作成する。
3. Interventional Radiology(IVR)では治療に参加する。
4. 放射線治療計画に参加する。
5. 院内における他診療科とのカンファレンスに参加する。

【研修プログラム】

1. 画像診断プログラム（約3ヶ月間に経験する症例）
 - (1) 臨床画像解剖・病理学
 - (2) 単純X線写真（150）
 - (3) CT（400）
 - (4) MRI（200）
 - (5) RI（100）
 - (6) 超音波（腹部・体表）（100）
 - (7) 血管造影（心臓を除く）
 - (8) 消化管造影（上部消化管造影・注腸造影）（50）
2. IVRプログラム（40）
 - (1) 塞栓術（腫瘍・緊急止血術）
 - (2) 血管形成術・血栓除去（溶解）術（ASO、透析シャント）
 - (3) カテーテル留置（転移性肝腫瘍・急性膵炎）
3. 放射線治療プログラム（20）

研修医の 皆さんへ

進歩著しい医用画像を撮影・作成し、これを診断、そして治療する、総合画像診断・治療をおこなっていく診断科です。

従来からのX線に加え、超音波・核磁気・ガンマ線などいろいろな信号を用い画像解剖を検討し、機能を検討、そして低侵襲の治療を実施していきます。

II. 研修目標

放射線診療に関わるすべてのモダリティを理解する必要があり、実際に自分でその装置を操作または経験してその原理や技術を学ぶ。この研修では、放射線診断（核医学を含む）、放射線治療の最低限の基本的事項を理解することにある。

【経験すべき診察法】

1. 問診
 - (1) 喘息・アトピーの既往歴聴取
 - (2) 造影剤・薬物・その他に対するアレルギー反応の既往歴聴取
 - (3) 体内金属・ペースメーカーなど、CT・MRI禁忌症例の把握
 - (4) 重症心疾患・緑内障・前立腺肥大など、抗コリン剤禁忌症例の把握
 - (5) 間欠性跛行の病歴聴取・鑑別診断
 - (6) 出血傾向を来す薬物の服用歴
2. 理学所見
 - (1) 四肢動脈の確実な触知
 - (2) 四肢虚血時の皮膚所見（色調・疼痛）
 - (3) 超音波検査時の腫瘍触診
 - (4) 注腸造影時の直腸診

【経験すべき臨床検査】

- (1) 腎機能障害の有無（ヨード・Gd造影剤使用の可否を判断する。）
- (2) 肝機能障害の把握（肝動脈塞栓術の禁忌を把握する。）
- (3) 炎症所見・血液像の把握（画像による鑑別診断の一助とする。）
- (4) 出血傾向の有無（穿刺検査の禁忌を把握する。）

【経験すべき手技】

- (1) 末梢静脈路確保
- (2) CT / MRI / RI / 超音波の使い分け
- (3) 各種造影剤の特性を知る
- (4) 動脈静脈穿刺（セルジンガー法）
- (5) 血管形成術（バルーンカテーテルの基礎知識）
- (6) 血管・腫瘍塞栓術（金属コイル・塞栓物質の基礎知識）
- (7) 血栓溶解・吸引術（ウロキナーゼなど、血栓溶解薬の使用法）
- (8) 圧迫止血法
- (9) 抗コリン剤筋注（消化管造影）
- (10) 非血管性処置（PTCD・PTGBDなど）

麻酔科は令和2年から3人体制となりました。

今年も、私たち麻酔科の目標は、「安全で快適な手術が受けられる環境を患者様に提供する」です。

麻酔科研修の主な目的は麻酔という特殊な状況下での患者さんの全身管理をとおして研修終了後、どの科に進んでもきっと役に立つスキルを身につけてもらうことです。（もちろん、麻酔科への道を選んでいただければうれしいです。）当院の初期研修では麻酔科を1～3ヵ月研修していただいておりますが、その間は救急外来での研修も含まれます。

では、その麻酔科研修で、研修医の皆さんに学んでいただくことを以下にします。短い期間ですが、なるべく多くの症例に接していただき、多くのことを学んでいただきたいと思います。

一般目標 1

日々の麻酔管理をとおして患者急変時に役立つスキルを修得する。

行動目標

- ①手術前診察時、各々の患者さんの持つ特異性や合併症、常用薬などの情報を得る。
- ②合併症や常用薬によって禁忌となる薬剤、処置について学ぶ。
- ③①②で得た情報を元に、麻酔計画を立てる。
- ④呼吸管理の方法を習得する（気道確保・マスク換気・気管挿管・挿管以外の気道確保法）。
- ⑤挿管困難症例に対する気道確保法について学ぶ。
- ⑥人工呼吸器の設定、人工呼吸器からの離脱を行う。
- ⑦突然の血圧上昇、低下患者への適切な処置について学ぶ。
- ⑧不整脈に対する初歩的な対応について学ぶ。
- ⑨観血的動脈圧測定、中心静脈圧測定のための橈骨動脈穿刺、内頸静脈穿刺を行う。

一般目標 2

患者さんの痛みを和らげる方法を理解する。

行動目標

- ①手術中・手術後の疼痛管理を通して、痛みのマネジメントを実施する。
- ②麻薬など鎮痛剤の使用法・適応・禁忌・合併症とその対策について学ぶ。
- ③鎮静剤の使用法・適応・禁忌・合併症とその対策について学ぶ。
- ④院内「緩和医療チーム」の一員として癌性疼痛患者の管理に参加する。

指導医

北 佳奈子

部長(平成11年卒)

麻酔科一般

麻酔科標榜医

日本麻酔科学会麻酔科専門医

難病指定医

臨床研修指導医



岩本 亜津子

医師(昭和60年卒)

医学博士

麻酔科標榜医

臨床研修指導医

日本温泉気候物理医学会温泉療法医

難病指定医

病理診断科

「病理診断科」は、診断の重要性から診療標榜科として承認され、臨床科として位置づけられています。病理診断科では患者さんと接することはまずありませんが、病理診断が最終診断となることが多く、責任の重い業務です。

病理診断は標本を診ることで全て診断に至る訳ではなく、臨床情報（身体状況、血液検査、画像など）との総合判断が重要です。また、主治医の要望は何か、患者さんの利益のためにはどのような報告を提供すべきかを常に考えなければならず、主治医との連携は欠かせません。

当科では、消化器、泌尿器、呼吸器、婦人科の検体を中心に、組織診断、細胞診断ともに年間 2,000 件程度の症例をあつかっています。実際の症例をともに評価しながら研修していきます。

一般目標

病理診断の役割・業務内容を経験し、疾患・病理診断・報告書について総合的に理解する。

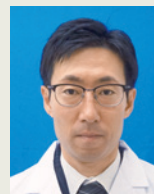
行動目標

- 1) 臨床経過、臨床上の問題点を解釈、評価できる。
- 2) 必要時は主治医と意見交換できる。
- 3) 組織検体、細胞検体の提出方法を説明できる。
- 4) 生検検体、手術検体を評価し、切り出しを行うことができる。
- 5) 組織標本、細胞標本の作製方法を説明し、自ら作製できる。
- 6) 作成した標本を正しく観察できる。
- 7) 特殊染色、免疫組織化学検査の方法論を理解し、結果を評価できる。
- 8) 病理診断、細胞診断の報告内容を理解し、説明できる。
- 9) コメディカルと協力できる。
- 10) 感染対策、ホルマリンの取り扱いが正しく行える。
- 11) 御遺体に対して礼節をもって接することができる。
- 12) 症例のプレゼンテーションができる。
- 13) 医療における病理の役割を理解する。

研修医の
皆さんへ

将来病理医を考えている先生には病理診断の基礎を、診療科を目指している先生には病理診断が主治医の先生から始まっていることを体験していただけたと思います。

指導医



荒金 茂樹

部長(平成18年卒)

日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本病理学会病理専門医
死体解剖資格
臨床研修指導医



森内 昭

医師(昭和50年卒)

医学博士
死体解剖資格認定(病理解剖)
日本病理学会認定病理医
日本病理学会病理専門医研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本臨床検査医学会臨床検査管理医
日本臨床検査医学会臨床検査専門医
難病指定医
臨床研修指導医

よくある質問

●平日や土日・祝日の勤務時間について

Q.

「実際の研修中の勤務時間」「土日・祝日の勤務体制」を具体的に教えてください。

A.

研修医の平日の勤務時間は8時30分から16時30分です。

超過勤務を行うこともあります、基本的に18時～19時には帰宅することができます。

研修医の熱意に応じて遅くまで働くことは可能ですが、無理に残業させることは決してありません。

土日の勤務は基本的にはありませんが、受け持ち患者さんの様子が気になる場合などは様子を見に来ることもあります。

●当直体制について

Q.

内科／救急研修中の当直回数・当直中の初期研修医が「救急対応する平均件数」「研修医の役割・患者対応」について具体的に教えてください。

A.

当直は最大で週1回までで、研修医の都合に合わせて自由に決められます。

救急車対応とウォークインの患者さん両方を見ることとなり、一度の当直で平均3件～5件ほどの患者対応を行います。

指導医の先生の指導のもとファーストタッチを行うので1年目でも安心して経験を積むことが出来ます。

初めは問診、身体診察から覚えて、アセスメントや治療方針を指導医と一緒に考えることで今後どの診療科に進んでも必要な救急初期対応を身に付けることが可能です。

●研修医の雰囲気

Q.

「研修医の雰囲気」「どんな人が病院に向いているのか」教えてください。

A.

当院の研修医は最大でも3名、少ない年度では1名で研修していた研修医もいます。

研修医が1名だと寂しいイメージを抱かれることもあるかと思いますが、過去に1名で研修していた研修医からは、

「他の研修医と変に比較されることがない。」

「研修医が貴重なため医師だけでなく他職種の方からも可愛がられる。」

「自分のペースで研修生活を送ることができる。」

など少人数だからこそその良さもたくさんあると言われていました。

みんなでワイワイ研修するより、自分の好きなペースでじっくり研修したい人にはピッタリな病院です。

●試験内容

Q.

面接や試験内容に不安を抱く医学生に対して、アドバイスやリラックスできるコメントをください。

A.

当院は大分大学医学部附属病院との「たすきがけ」での1年間の研修で来てくれる研修医の方が多いですが、基幹型の臨床研修も募集しています。試験内容は面接試験となります。

院長先生はとても優しく穏やかな先生ですのでご心配なさらずにリラックスしてお越しください。

臨床研修担当の先生も優しくとても面倒見がよくいつも気にかけての方です。

興味のある方は、まず病院見学にお越しいただき病院の雰囲気を掴んでみてください。

●一言メッセージ

Q.

最後に一言メッセージをお願いします。

A.

あなただけの貴重な研修をぜひ当院で！病院見学もお待ちしております。
お気軽にご連絡をお待ちしております！

研修医の声

G. W.
男性
(2023年)

当院の研修の魅力は、診療科ごとの垣根が低く連携が密であることから、各診療科の医師に相談しやすく、多彩な方面からの指導を受けることができる点です。また、平日の日中はどの科を回っていても救急車対応に当たることができ、様々な救急疾患に対する初期対応を学ぶことが出来ます。医師の先生だけでなくコメディカルの方々も丁寧に指導を下さり、病院全体で研修医を育てて下さっている、そんな研修体制です。

T. A.
男性
(2022年)

大分医療センターでの1年間の臨床研修は、非常に充実したものでした。特に1年間毎日日中の救急対応を行うことは、慣れるまでは大変でしたが、当初持っていた救急医療に対する苦手意識がだんだんと無くなっていきました。先生方やコメディカルの方々と連携を取りながら、チーム医療を実践していく中で、知識だけでなく医師として必要な心構えや立ち居振る舞いを学ぶことができました。御指導いただいた先生方や御世話になった職員の方々には感謝の気持ちで一杯です。大分医療センターでの貴重な経験を活かして、立派な医師となれるよう日々精進して参ります。

T. I.
男性
(2021年)

医師としてのスタートをこの大分医療センターで切ることができ、非常に有意義で、あっという間の1年間だったと振り返っています。自分の力不足を幾度も実感しながら、先生方を始めスタッフの皆さんにとっても丁寧に指導頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。一人一人の患者さんに勉強させて頂いた恩返しを将来還元できるよう、これからも自らの進路に向かって日々の診療に励んで参ります。

研修医の声

E. N.
女性
(2021年)

大分医療センターでは主に内科や外科を中心に研修させていただきました。

当院では直属の指導医だけでなく診療科を越えた全科の上級医にも相談することができ、またコメディカルスタッフとも距離が近く、診療・検査等を行うにあたりとても研修しやすい環境でした。普段の通常業務だけでなく、救急車対応や日当直を行う機会も多く、充実した初期研修医の1年間だったと感じています。この1年間で学び経験したことを今後に活かせるよう、頑張っていきたいと思います。

H. I.
男性
(2021年)

初期研修をするにあたって、それぞれの研修医によって重視する点は十人十色だと思います。専門性や稀な疾患の診断を重要視する人もいれば、研修医への手取り足取りの指導や講義がきちんとしているところを選ぶ人など様々でしょう。当院は中規模ということもあり、実際に色々と手技をさせてもらえるといった所に手が行きとどいています。残念ながら大病院の様に稀な疾患ばかりに携わったりする機会は比べると少ないですが、その分 Common Disease と向きあい、目の前の患者さんの主訴へ向き合っていく姿勢は身につくと思います。もし初期研修に「実践力」を求めていたら大分医療センターを候補の一つに入れてみて下さい。

H. T.
男性
(2020年)

2020年4月より1年間、大分医療センターで1年目臨床研修医として勤務しておりました。大分医療センターでは診療科のローテーションを軸に、1年を通して救急車対応や日当直を行い、手技の実施時に他科の先生からも呼んでいただき、様々な場面を経験することが出来ました。救急外来対応の機会に恵まれている点を初期研修医として大変有難いものと感じました。実際の現場に立たなければ分からないことはやはり多く、スムーズな行動がとれませんでした。そんな質問にも皆様が温かく応じて下さり、少しずつ慣れることができました。先生方、病院スタッフの方々、患者さんには心より感謝しております。1年間の経験を糧に、今後も頑張っていきたいと思います。

研修医の声

S. H.
男性
(2019年)

研修医1年目の1年間を大分医療センターで研修させていただきました。大分医療センターでは、先生方をはじめ、スタッフの方々皆さまから、多くの知識や技術を御教示頂きました。日々の業務でお忙しいにも関わらず、研修医の教育に時間を割いて頂き、ありがとうございました。おかげで、実りある研修を行うことが出来ました。大分医療センターは、病院全体で研修医を育てようとしてくれる素晴らしい環境だったと改めて感じております。最初の研修を大分医療センターで行うことができ、本当に良かったです。ここで学んだことを、これからの臨床でもしっかり生かしていきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

J. W.
男性
(2018年)

2018年4月より2019年3月までの1年間、大分医療センターで1年目臨床研修医として勤務しておりました。大分医療センターでは代謝・内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、外科、麻酔科、消化器内科、放射線科の各科をローテーションしながら、また指導医とともに救急車対応や当直なども行い、実際の臨床に携わることで様々なことを学び、経験することができました。多くの患者さんとも出会い、治療のことだけを考えるのではなく、患者さんに寄り添い真摯に向き合うことの大切さも教えてもらいました。私は大分医療センターの位置する大在のすぐ隣である鶴崎の出身ですが、医師としての第一歩を私の生まれ育った地区で踏み出せたことをとても幸せに思っています。先生方、病院スタッフの方々、そして患者さんには心より感謝しております。大分医療センターで研修したこの1年間の経験を糧にして、これからも頑張っていきたいと思います。

病院見学のご案内

当院では、2026年度の臨床研修医を募集するにあたり、
病院見学を随時行っています。是非見に来て下さい。

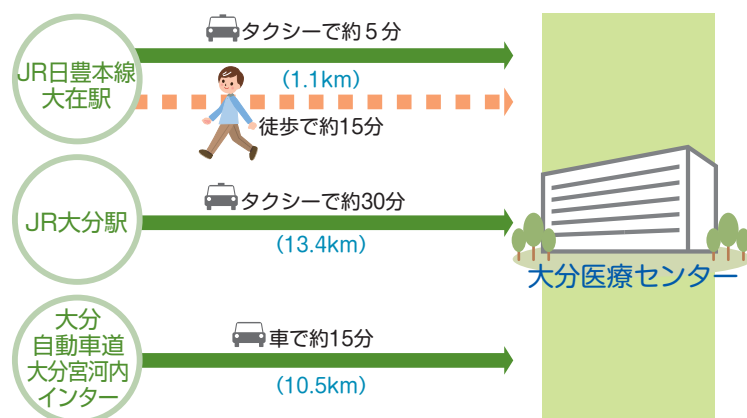
連絡先

独立行政法人国立病院機構 大分医療センター

管理課 庶務係長 〒870-0263 大分市横田二丁目11番45号

TEL: 097-593-1111 FAX: 097-593-3106

Mail: 617-sy01@mail.hosp.go.jp



独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号
TEL097-593-1111 FAX097-593-3106
<https://oita.hosp.go.jp>

